

群馬県内科医会だより

No.32 平成 21 年 2 月 2 日

目次

高血圧治療ガイドライン 2009 (JSH2009) 指定講演会	・・・	2
第 15 回群馬県糖尿病代謝セミナー	・・・	2
第 9 回群馬血管医学研究会	・・・	3
第 1 回 AGING CARE symposium in 前橋	・・・	4
平成 20 年度県内臨床研修病院マッチング結果	・・・	4
5 分ルール・中医協での攻防	・・・	5
10 年後の医学・医療	・・・	6

丑

今年の十二支は丑。昨年までは辞書を引いていたが、今年はインターネットで調べた。

丑の刻：午前 2 時を中心とした 2 時間。「丑三つ」は、丑の刻を四分し、その第 3 に当たる時刻で、午前 2 時から 2 時 30 分を指す。

丑：紐に由来し、芽が種子の中に出来て発芽出来ないでいる状態を示す。後牛の意味が割り当てられた。

別の本で、次のような記載を見た覚えがある。丑には本来牛の意味は無かった。古代中国の中央国家が、辺境の民にも十二支が容易に理解出来るように、全部に誰でも知っている動物を割り当てた。そこで、丑には牛が割り当てられた。(鳥取県内科医会だよりより)

高血圧治療ガイドライン 2009 (JSH2009) 指定講演会

日時 平成 21 年 1 月 23 日 (金) 午後 7 時 30 分

場所 マーキュリーホテル

座長 群馬大学大学院医学系研究科 臓器病態内科学 教授 倉林 正彦先生

演題 JSH ガイドラインからみた C K D 治療戦略の変貌

慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科 准教授 林 晃一 先生

《編者注》すでに終わった講演会である。近年腎機能低下や尿蛋白が心血管疾患の強力なリスクになることが明らかにされ、C K D への対策が進められている。J S H 2009 では、C K D 早期発見に向け検尿と e G F R の算出を実施することが推奨されることになった。治療戦略は J S H 2004 とほぼ同様で、原則として高圧目標の達成 130/80mmHg 未満 (尿蛋白 1g/日以上の場合は 125/75mmHg 未満)、R A 系の抑制、尿アルブミン、尿蛋白の減少・正常化があげられている。

第 15 回群馬県糖尿病代謝セミナー

日時 平成 21 年 2 月 12 日 (木) 午後 6 時 45 分

場所 群馬ロイヤルホテル 2 階鳳凰の間

一般講演 糖尿病の治療について インスリンを使ってみる

群馬大学付属病院 肝臓代謝内科 講師 岡田 秀一先生

特別講演

座長 群馬大学大学院医学系研究科 病態制御内科学 教授 森 昌朋先生

糖尿病と動脈硬化 治療戦略を考えるー

日本医科大学 内分泌代謝内科 教授 及川 眞一先生

第 9 回群馬血管医学研究会

日時 平成 21 年 2 月 27 日 (金) 午後 6 時 50 分

場所 マーキュリーホテル 新館 2 階鶴の間

座長 群馬大学大学院医学系研究科 臓器病態内科学 教授 倉林 正彦先生

一般講演 血管平滑筋において Runx2 は TGF /Smad シグナルを介し

た CTGF の発現を抑制する

群馬大学院医学系研究科 臓器病態内科学 大山 善昭先生

特別講演 1 脳血管障害の克服に向けてー脳におけるレニン・アンジオテ

シン系の役割

愛媛大学大学院 分子心血管生物・薬理学分野 講師 茂木 正樹先生

特別講演 2 心不全の病態と治療：マルチバイオマーカー・ストラテジー

心筋細胞障害の視点からー

福島県立医科大学 内科学第一講座 教授 竹石 恭知先生

倉林教授から次のメールを頂きました。

第 9 回群馬血管医学研究会のお知らせ

群馬血管医学研究会は、臓器病態内科学（第二内科）の大学院生の研究を含めて、国内から循環器領域の研究でご活躍しておられる先生をお招きする会として平成 13 年に発足いたしました。今回は大学院 2 年生の大山善昭君に研究のご紹介、福島県立医科大学第一内科教授の竹石恭知先生、愛媛大学大学院分子心血管生物・薬理学分野講師の茂木正樹先生より特別講演をお願いしております。

大山善昭君の研究の概略を説明します。動脈硬化病変の安定性にはプラーク内のコラーゲン量が関係しています。Connective Tissue Growth Factor (CTGF)とTGFβが血管平滑筋細胞に作用することによってコラーゲン産生が増加し、プラークは安定化します。大山君はRunx2という転写因子がCTGF遺伝子発現を強力に抑制し、プラークを不安定化する可能性を見出し、その分子メカニズムを明らかにしました。特別講演の竹石先生は前橋高校のご出身、茂木先生は高崎高校のご出身です。血管の老化、脳血管傷害、心不全の基礎と臨床に関する最新の興味深い研究をどうぞご期待下さい。

平成21年1月21日

群馬大学大学院医学系研究科臓器病態内科学 倉林正彦

第1回 AGING CARE symposium in 前橋

日時 平成21年3月26日(木)午後7時より

会場 マーキュリーホテル新館2階 鶴の間

テーマ

「生活機能を保つためのスキルアップを目指して」

1. 症例検討

2. 教育講演

「認知症予防と寝たきり予防」 群馬大学保健学科 教授 山口 晴保先生

《编者注》総合診療部教授の田村遵一先生が中心になって立ち上げた研究会で、アンチエイジングの話題を取り上げて年1回開催予定です。

平成20年度県内臨床研修病院マッチング結果

病院名	定員	中間発表1位希望	最終マッチ数	最終マッチ率	対前年比
群馬大学付属病院	59	19	29	49.2%	100%
国立高崎病院	6	4	6	100%	120%
前橋赤十字病院	12	11	12	100%	100%
伊勢崎市民病院	12	12	11	91.7%	91.7%

利根中央病院	5	5	5	100%	125%
桐生厚生病院	8	2	2	25%	28.6%
公立富岡総合病院	3	2	3	100%	150%
前橋協立病院	4	2	4	100%	100%
富士重工太田病院	6	0	1	16.7%	50%
館林厚生病院	4	0	0	0%	0%
心臓血管センター	4	0	0	0%	-
群馬中央総合病院	6	2	2	33.3%	66.7%
公立藤岡総合病院	4	6	4	100%	200%
日高病院	4	6	4	100%	100%
済生会前橋病院	2	1	1	50%	-
老年病研究所病院	2	0	0	0%	-

《編者注》研修医を受け入れる病院の動向は、ほぼ昨年と同じ傾向であった。すなわち都会の病院に研修医が集まる傾向にあり、地方の病院の苦戦が目立った。今回も大学病院は半数を割り込んだ。現在、2年間の初期研修期間を1年間に短縮する案が検討されている。これにより、制度切り替えの年には同時に2学年の医師1万6千人が専門医研修を開始することになる。従って、計算上は医療現場の実働医師が確実に8千人増員されることになり、医師不足の緩和には即効的であるというが。

5分ルール・中医協での攻防

悪名高い外来管理加算の「5分ルール」に関する攻防が、平成20年11月5日の中医協総会で展開された。MediFax(5521号、2008.11.6)からの引用。

診療側：「5分ルールで、医療機関では予想以上の減収になっている。次回改定を待たず、議論を始めて貰いたい」。

支払側：「病院への医療費を増やす為、診療所の再診料を下げるとの案に、診療側が『そりゃ、困る』と言ったので、外来管理加算の見直しが決まっ

たじゃないのか。議論を再開するなら、診療所の再診料引き下げも議論しなくちゃいかん。5分ルールだけを個別に取り上げて議論するのじゃなく、検証部会で一緒に議論すべきじゃないか」。

診療側：「公益側の裁定で決まったことと、中医協で決まったことは軽々しく変更出来ないことも承知しているが、医療現場の声とデータ資料がある。急ぎ検証して欲しい」。

支払側：「あれだけエネルギーを使って議論したものを、再び議論することには賛成出来ない」。

遠藤会長：「基本診療料の在り方の中で議論する。その際は、調査データを出して貰う。具体的扱いは今後議論する」と総括。(鳥取県臨床内科医会だよりより)

《編者注》日本医師会は1月14日外来管理加算に関するアンケート調査の結果をまとめ、中医協診療報酬基本問題小委員会(遠藤久夫委員長)に提出した。診療報酬改定時に見込まれた影響額240億円減を大幅に上回る748億円減と推計され、時間要件の撤廃を強く求めた。5分間ルールが決まったからか、「あの先生は診察しないと薬をださない」といった声を患者さんから聞く、私も、うちも同じですよと言っている。

10年後の医学・医療

10年後の医学・医療はどのような姿になっているのか。日本医事新報(平成21年1月10日号)の特集から。

癌の治療法について、手術はますます低新襲になり治療は個別化され、テーラーメイド医療になる。ロボットなどの手術はさらに進歩し、手術のときの苦痛は最小限になり腹腔鏡もいらない時代がくるかもしれない。(北島 政樹)

癌の薬物治療は分子標的治療薬が進歩し、個別化治療がますます加速する。また、より幅広い抗腫瘍スペクトラムを有する従来の抗がん剤の組み合わせが開発されていく。(西条 長宏)

心不全の再生治療について、血管を作る薬が心不全の治療になる。心筋の再生治療に iPS 細胞が使われ心臓に植えることが現実化し、心臓の中の幹細胞を活性化することも可能になる。(小室 一成)

糖尿病の治療は、膵細胞を増やす治療法が期待される。その中で注目されているのが、インクレチン治療薬だ。糖尿病は完治というステージまでもっていける時代になる。(岡 芳知)

アルツハイマー病の真犯人を同定できる可能性がある。アミロイドやタウが関与しているといわれているが、これが火付け役になっているのかどうか、この辺がはっきりして治療薬につながる可能性がある。(浅田 隆)

関節リウマチの原因特定につながる大発見があるかもしれない。リウマ

子の病態形成機序を標的とした新薬の開発も進む。(川合 眞一)

家族性パーキンソン病の病因遺伝子が明らかになってきた。一般の孤発性パーキンソン病の発症につながる重要な手がかりがつかめてきた。レビー小体が シヌクレインで形成されていることがわかり、このメカニズムが解明されると病気の本体がわかる可能性がある。(高橋 良輔)

(I.Nagashima)